

新型コロナは終息へ／新しいインフルエンザワクチン／大腸がん予防

新型コロナウイルスは昨年同様に夏の流行となっていました
が、終息に向かっているようです。10月20日までの1週間で
定点あたりの患者数は全国で1.86人(前週2.38人)で減少が
続いています。大阪府では1.01人(前週1.44人)と全国より少
なくなっています。

過去10年で最大の流行となっているマイコプラズマ肺炎は、
大阪で3.28人と例年に比べて多い状況が続いています。手足
口病も大阪で5.30人と前週の6.39人よりはやや減少しまし
たが、依然警報レベルの5を超えており、大人にも感染するの
で注意が必要です。

昨年は異例に早く流行が始まり10月には警報が出ていたインフルエンザ
ですが、沖縄県で11.18人と突出している以外は、全国で0.73人(昨年同期
16.41人)、大阪で0.55人とどまっています。

新しいインフルエンザワクチンの接種が開始されました

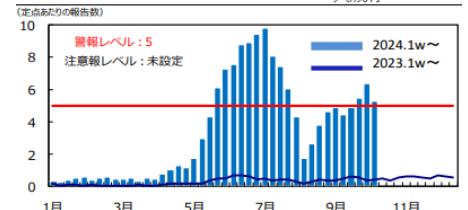
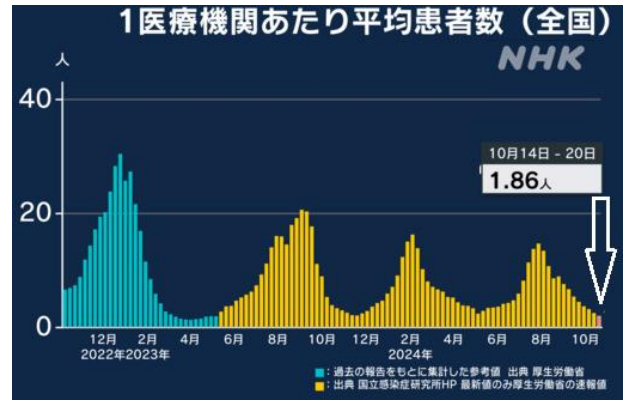
経鼻弱毒生インフルエンザワクチンは2003年に初めて米国で
承認され、2023年4月時点で36の国と地域で承認されていま
す。小児にとって、ワクチン注射に伴う痛みは重大な懸念事項で
あり、経鼻接種による痛みの軽減には重要な意義があります。日本
ではこれまで未承認のままでしたが、2023年3月にフルミスト®点
鼻液の製造販売承認がなされ、実際の接種が10月から開始され
ています。対象は2~18歳に限られ、各医療機関での任意接種とな
ります。従来のワクチンに比べて値段が高く、8千円前後の費用が
かかりますが、1回の接種で済みます。

大腸がんが増えています~早期からの予防を~

人口動態統計によると大腸がんは日本の男性の死亡率第2
位、女性では1位となっており、肺がんと同様に増加傾向が続
いています。厚生労働省によると、2020年には男性82,809人
が、女性64,915人が大腸がんにかかったとのことで、男女合
わせると1位で、全体の15.6%となっています。

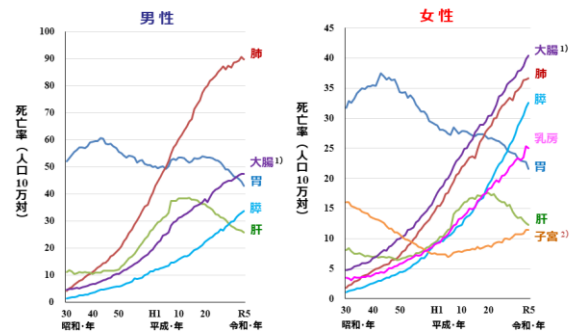
大腸がんの増加原因として、肉食を中心とした食生活の欧米
化、すなわち高脂肪・低繊維食が考えられています。便が大腸
に留まる時間が長くなり、便に含まれる発がん性物質が影響し
て、がんが発生しやすくなるともいわれていま
す。肥満により、大腸がんが増えることも報告
されています。また喫煙や過度の飲酒、運動
不足も危険因子とされています。小児期からの
食習慣や運動習慣などが将来のがんに関係し
ますので、早い時期から家族ぐるみでの大腸
がん予防を心がけてください。

大腸がんは早期の段階では症状がほとんどありません。男女ともに、40歳以上の人は毎年1回大腸がん検診を受けます。潰瘍性大腸炎にかかったことがある、家族の中に大腸がんにかかった人がいる、大腸ポリープが見つかったことがある人では特に重要です。



投与方法	点鼻	皮下注射
種類	生ワクチン	不活化ワクチン
年齢	2~18歳	6か月~
接種回数	1回	1~2回(年齢による)
痛み	なし	あり
接種料金	高い	安い
予防効果	同等	
ウイルス株	A型2種 B型1種	A型2種 B型2種
効果発現	2週間	2週間
副反応	鼻汁、発熱等	接種部位の腫れ、発熱等
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦・乳児のいる家庭 ・喘息がある ・アスピリン内服中 ・抗原検査が陽性となる 	

悪性新生物<腫瘍>の主な部位別にみた死亡率(人口10万対)の年次推移



注: 1) 大腸の悪性新生物<腫瘍>は、結腸の悪性新生物<腫瘍>と直腸51%結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>を示す。
ただし、昭和43年までは直腸移行部の悪性新生物を含む。
2) 平成6年以前の子宮の悪性新生物<腫瘍>は、胎嚢を含む。

大腸がんの3つの原因

